

第十三節 大正二年

大正二年度東京美術學校年報

甲 款

概況

大正二年四月八日本年度ニ於ケル豫備科入學許可者氏名ヲ官報ニテ発表セリ

同年九月廿三日本年度ニ於ケル撰科入學許可者氏名ヲ官報ニテ発表セリ

同年十月四日本校設置紀念日ニ付紀念式ヲ舉行シ支那印度〔早崎稜吉、桐谷洗麟の講話〕ニ関スル講話會ヲ催シ並ニ之ニ關聯セル参考品ヲ陳列シテ職員生徒ニ觀覽セシメタリ

同三年一月八日午前十時ヨリ例ニ依リテ職員生徒一同講堂ニ參集シ授業始ノ式ヲ舉ゲ 勅語奉讀ヲ行ヒテ式ヲ終レリ

同年三月二十日此日ヨリ開會セル東京大正博覽會教育部へ本校各教室ニ於ケル授業ノ實況写真敷地圖面等ヲ出陳ス

同年同月三十一日本校々舎改築全部落成シ又敷地ヲ中断シテ道路ヲ設ケラレタリ

同日付ヲ以テ本年ノ卒業生ニ卒業証書ヲ交付シタルガ其授與式ハ翌四月ニ入りテヨリ舉行シタリ

規程

大正二年六月十三日勅令第百八十三號ヲ以テ本校定員中助教授

設備

「二十一人」ヲ「二十人」ニ改メラル

同年十月八日本校日本畫科西洋畫科圖按科卒業者中圖畫教員タルベキモノヲ教員無試験檢定ニ關スル指定學校中ニ加ヘラル

一、建築科設備費

二、寫真製版科設備費

以上兩科ヲ設クルノ緊急必要ナルコトハ本年報中ノ將來施設上重要ト認ムル事項欄ニモ記載スル所ノ如クニシテ兩三年前以來ノ豫算ニモ之ヲ計上セシガ未ダ實施セラル、ニ至ラザルヲ以テ速ニ之ヲ實施セラレンコトヲ望ム 而シテ兩科ノ設備費中寫真製版科ハ大正三年度ニ於テ其一部ヲ受付セラレタルモ從來餘裕ナキ本校ノ經費ニテハ如何トモスルコト能ハザルヲ以テ猶ホ之ヲ支出セラレシコトヲ切望ス

職員

本校職員ノ俸給及諸給ノ豫算ハ常ニ不足ヲ告グ 之レ他ノ直轄學校ニ比シテ平均額ノ低キト從來各科増設ノ際増員ノ少キトニ職由セリ 故ニ平均額及俸給豫算ノ増加ハ切ニ望ム所ナリトス

本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十四人（内一人他校ヨリ兼務）助教授十六人（内一人留學中）書記五人囑託講師九人同教員七人同醫師一人副科囑託三人教務雇七人事務雇七人ニシテ之ヲ前年度末ニ比スレバ教授一人ヲ減シ助教授中留學生一人ヲ減シ囑託教員一人増シ教務雇事務雇ハ各一人ヲ減シタリ 外國留學生ハ前年度末ニ比シ助教授一人ヲ減セリ 休職員ハ二人（教授一人書記一人）ニシテ之ヲ前年度末ニ比スレ

バ一人ヲ増シタリ
生徒

全体ニ於ケル生徒ノ學力操行健康ノ状態ハ前年度ニ比シテ著シキ
差違ナク新入學生モ亦前年度ニ比シテ著シキ差違ナシ

本年度新入學者ハ本科八十八人撰科九人(外ニ外國人七人) 圖画
師範科十九人研究科三十二人ニシテ其入學者ノ學力ノ程度ハ本科
生ニアリテハ官立専門學校卒業者一人官立中學校卒業者四十二
人私立中學校卒業者二十二人工藝學校卒業者十二人工業學校卒業
者十人専門學校入學者試験檢定合格者一人撰科生ニ在リテハ中學
校一年以上修了者二人高等小學校卒業者二人同程度ニ依リテ試験
ヲ施シ入學ヲ許シタルモノ五人圖画師範科生ニアリテハ官立中
學校卒業者五人私立中學校卒業者二人師範學校卒業者十二人研究
生ハ何レモ本校卒業者ノ入學シタルモノナリ

新入學生ノ年齢ハ本科生ハ最高二十六年五ヶ月最低十八年三ヶ月
平均二十一年六ヶ月撰科生ハ最高二十二年七ヶ月最低十八年一ヶ
月平均十九年三ヶ月圖画師範科生ハ最高二十六年一ヶ月最低十九
年九ヶ月平均二十二年八ヶ月研究生ハ最高二十八年十ヶ月最低二
十二年三ヶ月平均二十五年三ヶ月(孰レモ外國人ヲ除ク)ナリトス
生徒ノ入退學ハ本年度入學者ハ本科八十八人撰科九人(外ニ外國
人七人) 圖画師範科十九人研究科三十二人再入學者七人ニシテ退
學者ハ病氣退學九人家事係累退學三十人除名九人死亡三人在學資
格消滅七人(此内豫備科五人研究科一人圖画師範科一人) 逐學ニ
處シタルモノ一人アリ 今之ヲ前年度ニ比スレバ入學者ニアリテ
ハ本科二十三人ヲ撰科ニ一人ヲ研究科ニ十四人ヲ増シ圖画師範科

ニ一人ヲ減シ再入學者ハ四人ヲ増セリ 退學者ニアリテハ病氣退
學ニ三人ヲ除名モ亦三人ヲ死亡ニ一人ヲ増シ家事係累退學ニ六人
ヲ在學資格消滅ニ二十四人(此内豫備科八人研究科五人圖画師範科
一人) ヲ退學ヲ命シタルモノニ二人(本年度ナシ) ヲ轉科ニ二人
(同上) ヲ復校ニ一人(同上) ヲ減シ逐學(本年度モ一人アリ)
ニ増減ナシ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スレバ日本画科ニ
八人ヲ西洋画科ニ五人ヲ彫刻科ニ三人ヲ鑄造科ニ一人ヲ漆工科ニ
二人ヲ研究科ニ十七人ヲ増シタルガ圖按科ニ一人ヲ撰科ニ一人ヲ
圖画師範科ニ五人ヲ減シタルヲ以テ差引二十九人ノ増加ヲ見タリ
而シテ又本年度末ニ於ケル外國人ハ撰科生中ニ支那人十一人ア
リ

本年度ノ卒業生ハ本科五十一人撰科十三人圖画師範科二十人計八
十四人ニシテ前年度ニ比スレバ十六人ヲ増セリ
生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ撰ヒテ特待生トナシ大正二年
九月ヨリ一學年ノ授業料ヲ免除シタルモノ十四人アリテ前年度ニ
比スレバ四人ヲ減シタリ

生徒ノ前學年ニ於ケル勤^{〔簡〕}惰ヲ考査シ精勤者ニ賞狀ヲ授與シタルモ
ノ十人アリテ前年度ニ比スレバ三人ヲ減セリ

實業學校教員養成規程ニ依リ毎月學資トシテ一ヶ月金五円ヲ補給
シタルモノハ一人ニシテ其數前年度ニ同シ

圖画師範科生徒ニハ學資トシテ毎月金六円ツ、ヲ支給ス 本年度
ノ支給人員ハ五十四人ニシテ前年度ニ比スレバ三人ヲ減ズ

大正三年三月末卒業スベキ各本科撰科生徒ニ實地修學ノタメ大正

二年五月十三日ヨリ三週間ヲ以テ教授二人囑託一人雇一人ヲシテ之ヲ引率セシメ京都府滋賀縣奈良縣へ出張シテ美術上ノ研究ヲナサシメタルコト前年ニ同シ

大正三年三月末卒業スベキ圖画師範科生徒ヲシテ実地授業法調査研究ノタメ大正二年十月九日ヨリ十日間ヲ以テ教授一人ニ之ヲ引率セシメ京都大阪ノ二府及奈良縣へ出張セシメタルコト是亦前年ニ同シ

本校ハ皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シテハ申報スベキコトナシ
将来施設上重要ト認ムル件

甲 留學生増派ノ件〔明治三十九年〜大正元年度〕

乙 生徒實地研究費増額ノ件〔明治四十一年〜大正元年度〕

丙 建築科特置ノ件〔明治四十四年、大正元年度報告とほ同文につき省略。末尾の予算請求年度が「大正四年度」に替

けられた。〕

丁 寫真及製版科新設ノ件〔前年度報告と多少異なる部分がある〕
寫真及寫真製版術ハ今ヤ學術文藝ノ普及發達ヲ幫助スルノ要具トシテ且日常生活上必須缺クベカラザルモノトナリ隨テ經濟上ニ於テモ漸ク重要ノ位置ヲ占ムルニ至レリ 此趨勢ハ日ヲ逐テ益増進スベキハ言ヲ俟タザル所ナリ サレバ歐米諸國ニ於テハ寫真學ハ一科學トシテ大學ニ講座ヲ設クルモノアリ 獨塊諸國ニ於ケル美術學校高等專門學校寫真科ノ如キ米國ニ於ケル寫真大學ノ如キ又各國ニ於ケル寫真研究所ノ如キ施設アリテ科學トシテノ研究及技術者ノ養成ニ多大ノ努力ヲ為スノ現況ナリ 然ルニ我邦ノ實況ヲ顧ルニ斯業漸ク社會重要ノ位置ヲ占ムルニ至レルニ拘ラズ其從業者ハ多クハ寫真師徒弟ノ出身ニシテ學問ノ

素養アルモノ少ク學術ノ進歩ト相追隨スルコト困難ニシテ技術進歩ノ遲々タルハ固ヨリ其所ナリ 故ニ寫真及寫真製版技術家養成ノ施設ヲ要スルコト今日ヨリ急ナルハナシ 之ヲ以テ本校ハ寫真及製版科ヲ新設シテ此缺陷ヲ補ハント欲シ既ニ前年ノ年報中ニモ之ヲ掲ゲタルガ本邦寫真界ニ於テモ今ヤ大ニ其必要ヲ認識シ之ヲ建議スルノ舉アルニ至リ本省ニ於テモ亦必要ヲ認メラレ既ニ其設備費ハ大正三年度ニ於テ其一部ヲ交付セラル、コト、ナリタルモ此科ノ増設ニ伴フ經常費ハ未ダ増額ヲ見ス 設備費ノ交付アリタル今日ニ在リテハ速カニ増額セラレンコト切望スル所ナリ

戊 陳列館新設ノ件〔同右〕

如何ナル種類ノ學校モ參考標本ヲ必要トセザルモノナシト雖美術及美術工藝學校ニ於テハ參考標本ハ殆ト其生命トモ謂フベキモノナルガ故ニ歐米諸國ニ於テハ博物館内ニ美術學校ヲ附設スルカ或ハ美術學校内ニ博物館ヲ附設スルカヲ常トセリ 兩者ノ關係實ニ如斯離ルベカラザルモノアリ且ツ美術學校ノ如キ種類ノ學校ニ在リテハ畜ニ在校ノ生徒ヲ教養スルノミヲ以テ満足スベキニアラズ 或ハ其蒐集シタル參考品ヲ博ク示スコトニ依リテ或ハ其研究シタル所ヲ講義又ハ出版ヲ以テ公ニスルコトニ依リテ一般ノ美術社會工藝社會ヲ裨益スルコトヲ努メザルベカラズ 然ルニ本校ノ如キハ全部ヲ教場ニ充ツルガ如キ状態ナルヲ以テ參考標本モ之ヲ排列收藏スル所ナクシテ徒ニ教場ノ一隅ニ雜陳スルガタメニ塵埃ニ委シ易ク又屢々移動スルノ已ムヲ得ザルガタメニ破損シ易シ 在校生徒ニ示スダニ尚不便ヲ感スルガ

故ニ博ク示シテ以テ美術社會ヲ益スルコト能ハズ 故ニ今日ノ

マ、ニテハ美術學校ノ効用ノ一半ヲ欠クモノト云フベシ

本校々舎ハ大正二年度末ニ於テ改築ノ工事竣成ヲ告ゲタリ 陳

列館モ尋デ建築セラル、コト、ナラバ學校ノ設備完全ニシテ既

ニ蒐集シタル標本ヲモ陳列シ尚ホ漸テ博蒐ニ努ムルトキハ

之ヲ時代ノ順序ニ依テ排列スルコトヲ得テ一見美術工藝ノ變遷

ノ由ル所ヲ知ラシムルニ足ルベシ 此ノ如クナルトキハ教授上

ノ便宜ハ更ナリ貴重ナル標本ノ保存法モ亦全キヲ得ベク之ニ依

テ美術社會ヲ益スルコトモ尠少ナラザルベシ

陳列館ハ畜ニ參考標本ヲ陳列スル所トシテ必要ナルノミナラズ

生徒成績品陳列場トシテ缺クベカラザル所ナリ 故ニ陳列展覽

等ヲナスニ方リ陳列館ノ設ケナキトキハ毎ニ教室ヲ以テ展覽會

場ニ充テザルベカラズ 斯ル場合ニハ展覽會期ハ勿論其準備跡

片付ニ要スル日子少カラズシテ其間教授ヲ休止セザルベカラザ

ルノ不便アリ 且本校生徒卒業ノ際本校ヨリ材料ヲ資給シテ製

作セシムル卒業製作ハ之ヲ保存スルニ依リ倉庫狹隘ヲ告ケ之ヲ

堆積スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ 若シ之ヲ陳列館内ニ排列シ

テ在校生徒ニ示スノミナラズ博ク内外ノ來觀者ニ示スコトヲ得

バ物品保存ノ途立ツノミナラズ學校技術ノ功程ヲ公示スルニ足

ルモノアルベシ 由是觀之美術學校本然ノ効用ヲ完全ニ收メン

雜件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ノ依頼ヲ受ケ製作ニ従事シタルモ
ノ、中重モナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

依頼製作品一覽

| 品名 | 数量 | 受託年度 | 未竣工ノ別工 | 依頼者 |
|------------|------|------|--------|------------|
| 頌德表掛額 | 壹面 | 前年度 | 竣工 | 藤田組 |
| 油繪肖像畫(額縁付) | 拾貳面 | 本年度 | 同 | 中川望 |
| 松方侯爵銀像 | 壹軀 | 同 | 同 | 日本赤十字社 |
| 建築裝飾彫刻物 | 七拾四個 | 同 | 同 | 東京大正博覽會事務局 |
| 中央停車場壁畫 | 拾五坪 | 同 | 未竣工 | 鐵道院 |

大正二年度 東京美術學校年報

乙款〔火災等による特に申報すべき〕事項のみを掲載する。

其他經濟上特ニ申報スヘキ事項

一 本校火災後ニ於ケル復旧費ハ既定ノ本校校舍改築費ニ追加セラ

レ明治四十四年度及四十五年度ニ於テ全部復旧スヘキ筈ノ處四

十五年度ニ於テ豫算繰延トナリ本年度ニ於テ漸ク全部竣成シ設

備モ略ホ整頓スルニ至レリ

一 本校ニ於テ将来豫算ノ増額ヲ要スルモノノ内最モ緊要ト認ムヘ

キ分ハ甲款ノ職員及将来施設上重要ト認ムル件ノ項ニ於テ説述

セルニ依リ本項ニ之レヲ略ス

一 本校ニ於テハ實驗上從來民間ニ於テ出来得サル美術品等ノ製作

方ヲ引受ケ製作シ來リシ處近來民間ニ於テモ漸次進歩發達シ殊
ニ本校卒業生ノ發展著シキ為メ本校へ製作方依頼スルモノ尠ナ
ク為メニ之ヨリ生スル収入減少シ從テ經理上往々困難ヲ生スル

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

東京美術学校近事〔十一—五〕卷号 T・二・二・十二日

○本校の生徒募集 本校に於ては、本年四月より入學せしむべき、豫備科生徒約九十人（内日本畫科二十人、西洋畫科二十八人、彫刻科塑造部十人、木彫部四人、牙彫部三人、圖案科十人、金工科五人、鑄造科五人、漆工科五人）圖畫師範科生徒約二十人を募集せらる。豫備科の入學願書提出期限、及圖畫師範科の薦舉書回送期限は、各本年三月一日より十五日迄と定められ、入學に關する詳細の事柄は、一月九日の官報廣告に掲載せられたれば、關係者は右に就て詳細承知せらるべきなり。

○上官太子祭カタログの配付 一昨年本校に於て、聖德太子に因縁ある遺品、推古朝の遺品、支那六朝初唐時代の遺品等を蒐めて展覽會を催したる際、其目錄を調製すべきよしは嚮に記す所なりしが、其後正木學校長は自ら筆を執りて目錄を書せられ、之を石盤刷〔版〕と爲し、帝室の御物佛像を始め、重要な遺品十數圖を挿入し、表紙には法隆寺金堂天蓋樂書の天人を現はしたるものを製し、昨冬出品等の關係者へ配付せられたり。因にいふ此冊子は本校化學室にて製版印刷したるものなり。

○小場助手の名譽 美術新報に於ては賞美章なるものを作りて、一年間に製作せられたる優秀なる藝術品の作者に贈呈せんとし、昨年其譽を發表せられたるが、美術新報の同人諸氏は此第一回賞美章を何人に贈呈すべきかに關し、種々凝議したる結果、遂に一致の決議

を以て、昨年十二月吾樂に於て開きたる「萬蓋あるものゝ展覽會」出品中の「藤原式雲網彩色手箱」を以て優秀なるものと認め、其作者たる本校圖案科助手小場恒吉氏に對して、本年一月廿五日を以て日本橋俱樂部にて、第一回の賞美章を贈呈せられたり。其理由は本年一月發行の美術新報紙上に詳記せられたるが、要は作品の精巧にして優麗なるのみならず、同氏の人格を反映し、氏の藝術的良心は一筆一點にも現はれ、高雅なる氣品優秀なる趣味、熱心なる研究、不撓なる丹精の凝結して此作を成さしめたるものにして、藝術に一生を捧げ、一切の世事俗情に超絶し、時を吝まず、勞を厭はず、製作を樂むこと氏の如き人にあらざれば、到底企て得ざるものなりといふにあり。之れ誠に氏を知るの言にして、而も第一回の受賞者たるは、氏の名譽なりといふべし。

○石川寺崎兩教授の病狀 教授石川光明氏は本年一月初めより腎臟炎に罹られ引籠り療養中なるが、二月中旬頃は快癒せらるべしと。
△寺崎〔広業〕教授は、客冬廿三日頃より發熱加療中なりしが、二十六七日頃よりは熱度次第に上昇して三十九度乃至四十度に至り、遂に腸窒扶斯に變じたれば、家人門生等の憂慮一方ならず、一月二三日頃は餘程注意を要する状態なりしが、主治醫南部木村の兩博士も百方手を盡されたる甲斐ありて、四五日頃よりは漸次に熱度も下降し、此分にては今後の療養を怠らざれば、平癒疑なきまでに至りたれば、一同始めて愁眉を開きたりといふ。兩氏のために、一日も速に快癒あらんことを祈るものなり。

○本校一覽の配付 大正元年より大正二年に至る本校一覽は、舊臘印刷を終る筈なりしが、本年に至りて漸く刷成したるを以て、二月